

2023年3月期 第1四半期 決算説明会資料

株式会社サニックス
2022年8月17日

目次

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 2023年3月期 第1四半期 決算概況 | P.4 |
| 2. 2023年3月期 通期業績見通し | P.27 |
| 3. トピックス | P.38 |
| 4. 補足資料（2023年3月期
第1四半期 セグメント別実績） | P.41 |
| 5. 補足資料（事業構造） | P.52 |

【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

<注意事項>

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。

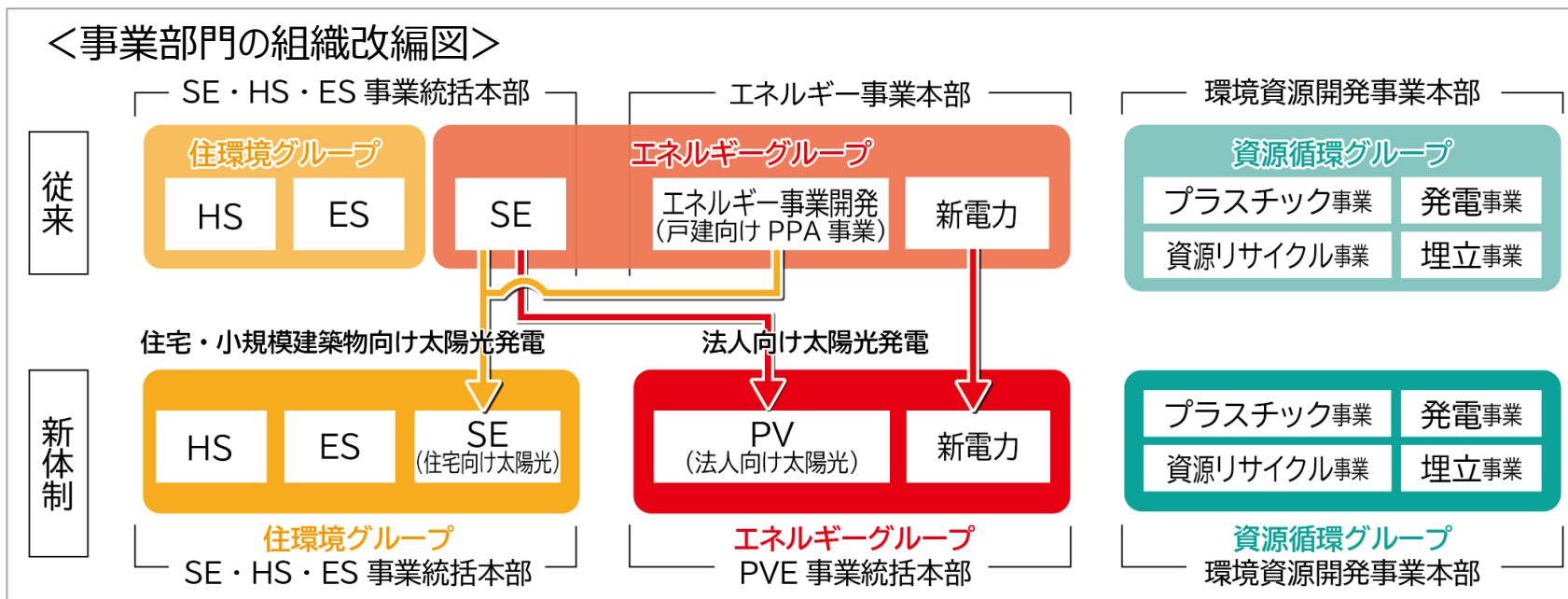
2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。変更により、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。なお、戸建住宅向け太陽光発電システム事業の「(新)SE事業部門」は、実務上前年同期の数値を組み替えることが困難なため前期比較を記載しておりません。そのため、PV事業部門は、前年同期の「(旧)SE事業部門」の数値と比較しております。

2023年3月期 第1四半期 決算概況

■ 2022年6月1日付の組織改編の概要

急激な速度で変化する市場環境により柔軟に対応し、各事業の成長のみならず、事業間シナジーの追及による成長促進を目的に組織改編を実施しております。

<事業部門の組織改編図>



- 太陽光発電システムの施工販売を行っている「(従来) S E 事業本部」を、顧客属性により、戸建住宅向け太陽光発電システム事業の「(新) S E 事業本部」と、法人向けの太陽光発電システム事業の「P V 事業本部(新設)」に分割して再編。
- 「エネルギー事業本部」内で、他社との協業による戸建て住宅向け P P A サービスを展開している「エネルギー事業開発部」については、戸建住宅向け太陽光発電システム事業「(新) S E 事業本部」に統合。

■ 2022年6月1日付の組織改編に基づき、セグメント区分を変更

組替前

S E 事業部門
H S 事業部門
E S 事業部門
環境資源開発事業部門
エネルギー事業部門



組替後

住環境領域	H S 事業部門・・・戸建住宅向けサービス事業
	E S 事業部門・・・法人・事業主向けサービス事業
	S E 事業部門・・・戸建住宅向け太陽光発電システム事業
エネルギー領域	P V 事業部門・・・法人向け太陽光発電システム事業
	新電力事業部門・・・電力小売事業
資源循環領域	環境資源開発事業部門・・・廃棄物リサイクル事業

- 売上高 11,346百万円（対前年同期 + 312百万円）（対計画▲542百万円）
- 営業利益 341百万円（対前年同期 + 444百万円）（対計画 + 244百万円）

2023年3月期 第1四半期連結業績のポイント

		対前年同期	対計画
売上高	【+】	<ul style="list-style-type: none"> 新電力部門において、エネルギー価格高騰にともなう販売単価の上昇 環境資源開発部門において、前期に発電所を停止し法定点検を実施したことによる稼働日数及び発電量の増加 	<ul style="list-style-type: none"> HS部門において、営業基盤の強化による白蟻防除施工の増加
	【-】	<ul style="list-style-type: none"> 新電力部門において、大口卸供給先の供給終了による販売量の減少 環境資源開発部門において、プラスチック燃料における高単価廃棄物受入量の減少 	<ul style="list-style-type: none"> HS・ES部門において、営業機会の減少 SE部門において、余剰太陽光案件施工の未達 新電力部門において、市場卸販売の減少
営業利益	【+】	<ul style="list-style-type: none"> 環境資源開発部門において、発電所の点検にかかる修繕費の減少 ラグビー部休部等にともなう費用の減少 	<ul style="list-style-type: none"> SE・PV部門において、想定より材料費率が低く、限界利益率が改善 環境資源開発部門において、最終処分コスト等の減少 新電力部門において、想定より調達単価が低く、売上総利益が改善 本社部門において、協賛イベント等の費用の減少
	【-】	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な人員増加による人件費の増加 PV部門において、為替影響等による材料コストの増加 新電力部門において、調達単価の上昇による電力調達コストの増加 	<ul style="list-style-type: none"> HS・ES部門において、売上減少にともなう利益の減少

※2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。変更により、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。なお、戸建住宅向け太陽光発電システム事業の「(新)S E事業部門」は、実務上前年同期の数値を組み替えることが困難なため前期比較を記載しておりません。そのため、P V事業部門は、前年同期の「(旧)S E事業部門」の数値と比較しております。

2023年3月期 第1四半期 連結決算概況

(単位：百万円)

	2022/3期	2023/3期	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	1Q実績	1Q計画	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	11,033	11,346	11,888	+ 312	102.8%	△ 542	95.4%
売上原価	7,294	7,266	7,903	△ 28	99.6%	△ 637	91.9%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	3,738 33.9%	4,080 36.0%	3,984 33.5%	+ 341	109.1%	+ 95	102.4%
販売費・一般管理費	3,841	3,738	3,887	△ 103	97.3%	△ 149	96.2%
営業利益 (売上高営業利益率)	△ 102 —	341 3.0%	97 0.8%	+ 444	—	+ 244	350.9%
経常利益 (売上高経常利益率)	△ 138 —	270 2.4%	34 0.3%	+ 409	—	+ 236	779.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (売上高当期純利益率)	△ 300 —	174 1.5%	△ 4 —	+ 475	—	+ 179	—

気候変動への対応
(脱炭素社会の実現)

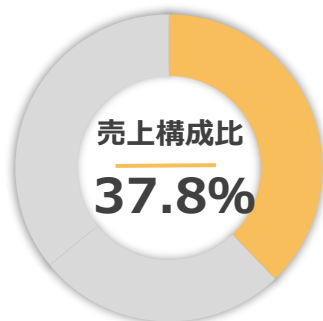


資源枯渇への対応
(循環経済の実現)



持続可能な社会へ

住環境領域



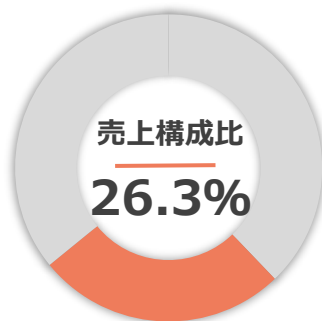
HS

ES

SE

『快適な住環境を次世代に
つなぐのが当たり前の社会』

エネルギー領域

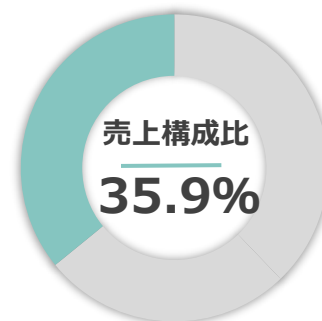


PV

新電力

『環境負荷の低い
エネルギーが当たり前の社会』

資源循環領域



環境資源

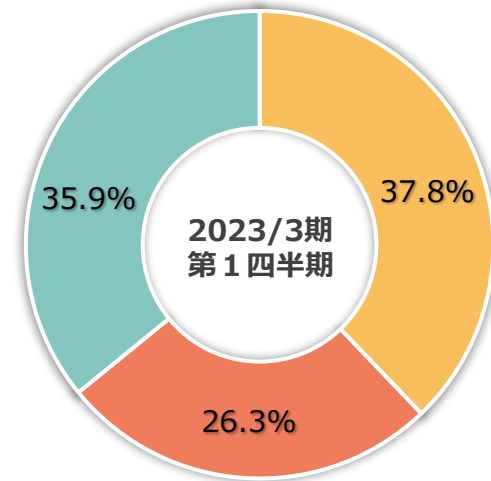
『捨てないのが当たり前の社会』

2023年3月期 第1四半期 事業領域別 売上高

■ 事業領域別 売上高構成比

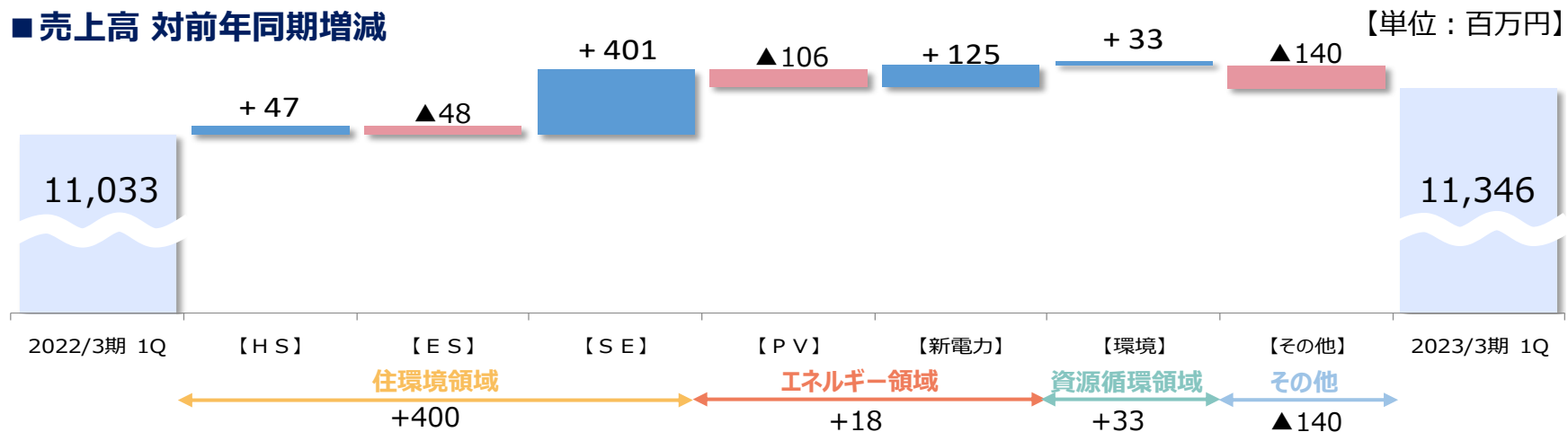
(単位：百万円)

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
住環境領域	4,293	+ 400	110.3%	△ 373	92.0%
エネルギー領域	2,981	+ 18	100.6%	△ 157	95.0%
資源循環領域	4,071	+ 33	100.8%	△ 11	99.7%
その他/セグメント間の 内部売上高調整額	0	△ 140	—	—	—
合計	11,346	+ 312	102.8%	△ 542	95.4%



■ 住環境領域 ■ エネルギー領域 ■ 資源循環領域

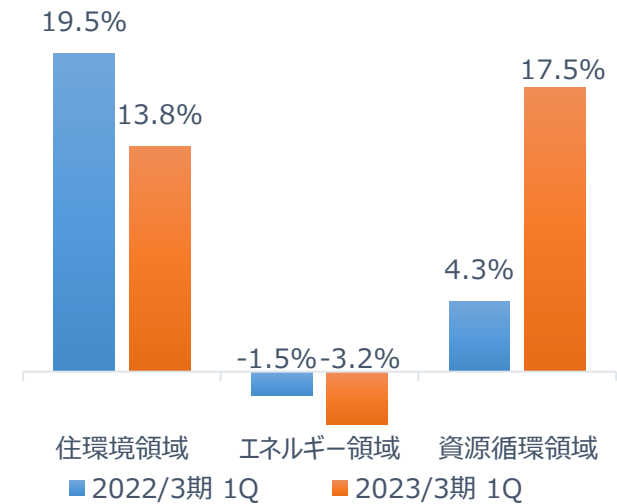
■ 売上高 対前年同期増減



(単位：百万円)

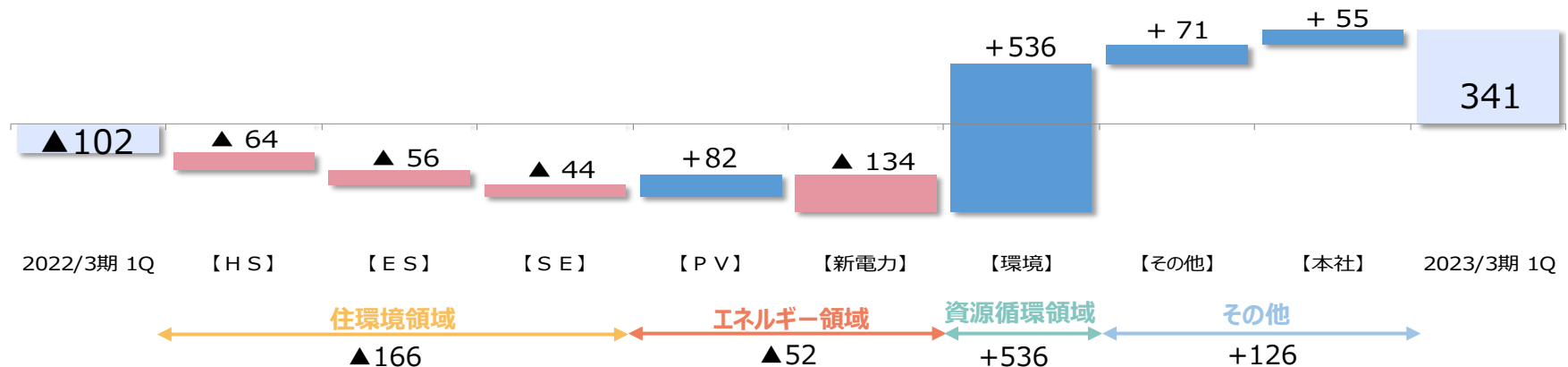
	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
住環境領域	593	△ 166	78.1%	△ 73	89.0%
エネルギー領域	△ 96	△ 52	—	+ 124	—
資源循環領域	710	+ 536	408.0%	+ 134	123.4%
その他	0	+ 71	—	—	—
配賦不能	△ 866	+ 55	—	+ 59	—
合計	341	+ 444	—	+ 244	350.9%

事業領域別 営業利益率



■ 営業利益 対前年同期増減

【単位：百万円】



■ 住環境領域

戸建住宅、集合住宅、その他建築物に対する適切なメンテナンスを実施することで、安心・安全・快適な暮らしを提供。また、建物の長寿命化により資源の効率的利用に貢献。

HS部門：ホーム・サニテーション事業

戸建住宅向けの環境衛生にかかるトータルメンテナンスサービス事業を展開

- 白蟻防除システム
- 床下・天井裏換気システム
- 基礎補修工事
- 家屋補強システム
- 住まいのリフォーム など

ES部門： エスタブリッシュメント・サニテーション事業

法人（ビル・マンション等）向けの環境衛生にかかるトータルメンテナンスサービス事業を展開

- ビル・マンションの給排水設備の保全対策
- ビル・マンションの外壁塗装・屋上防水
- 有害生物の防除（ペストコントロール）など

SE部門：ソーラーエンジニアリング事業

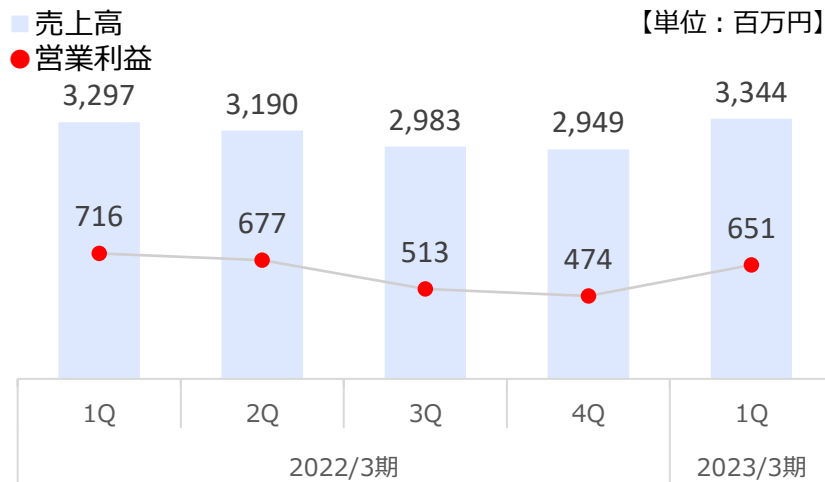
戸建住宅向け太陽光発電システムの製造から販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを展開

- 戸建住宅向け太陽光発電システム
- 蓄電池、V2H
- O&M（メンテナンス）など

（単位：百万円）

	2023/3期 1Q実績	前年同期		計画	
		差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	4,293	+ 400	110.3%	△ 373	92.0%
H S 部門	3,344	+ 47	101.4%	△ 117	96.6%
E S 部門	547	△ 48	91.9%	△ 80	87.1%
S E 部門	401	+ 401	—	△ 175	69.5%
売上総利益	2,538	+ 115	104.8%	△ 107	95.9%
営業利益	593	△ 166	78.1%	△ 73	89.0%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【HS事業部門】



主な増減要因（前年同期比較）

■ 売上高 +47百万円

- 【+】・人員増加及び新規出店による営業基盤の拡大
・提携先開拓強化による営業機会の拡充
⇒白蟻防除施工の増加

■ 営業利益 ▲64百万円

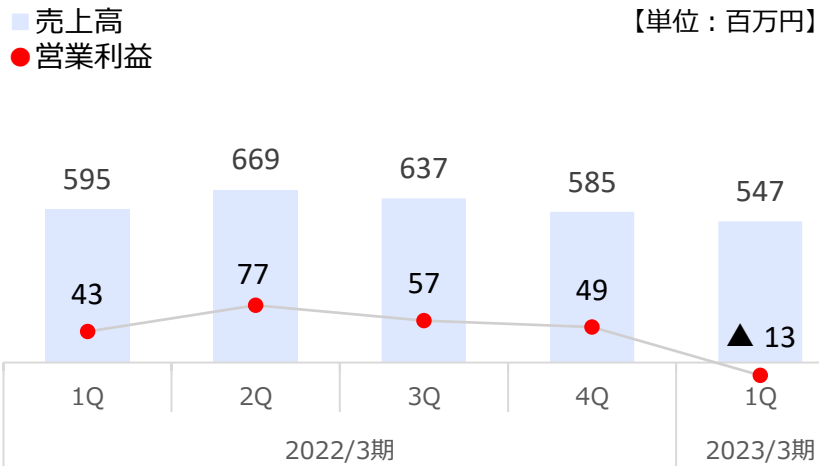
- 【-】・積極的な人員増加による人件費の増加
・売上増加による販売手数料の増加

■ 商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	3,344	+ 47	101.4%	△ 117	96.6%
白蟻防除施工	1,115	+ 66	106.3%	+ 34	103.2%
床下・天井裏換気システム	821	+ 26	103.3%	+ 0	100.1%
基礎補修・家屋補強工事	486	△ 70	87.3%	△ 88	84.6%
その他	920	+ 25	102.8%	△ 63	93.5%
売上総利益	2,126	+ 25	101.2%	△ 23	98.9%
営業利益	651	△ 64	90.9%	△ 37	94.5%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【ES事業部門】



主な増減要因（前年同期比較）

■ 売上高 ▲48百万円

- 【+】・継続的な人員増加による営業基盤の拡大
- 【-】・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による業務提携先からの受注の減少

■ 営業利益 ▲56百万円

- 【-】・外注をとまなう売上の増加による外注加工費の増加
- ・積極的な人員増加による人件費の増加
- ・新規出店による固定費の増加

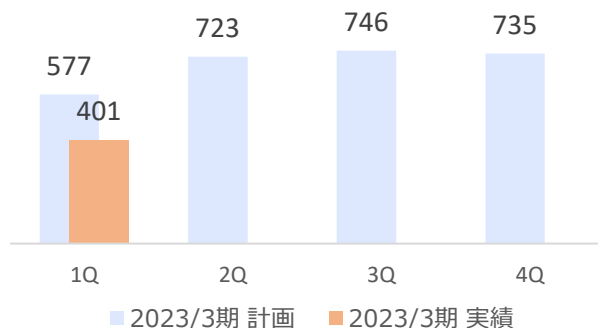
■ 商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	547	△ 48	91.9%	△ 80	87.1%
防錆機器取付施工	223	△ 90	71.0%	△ 104	68.1%
その他	324	+ 42	115.2%	+ 23	107.9%
売上総利益	275	△ 45	85.7%	△ 57	82.7%
営業利益	△ 13	△ 56	—	△ 44	—

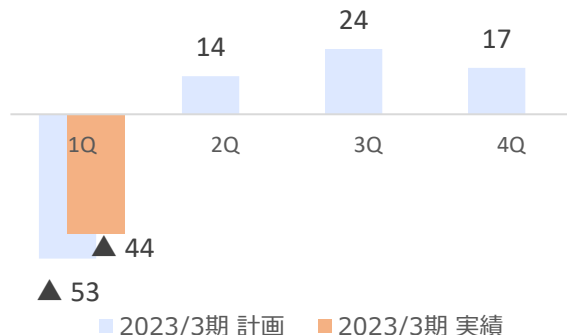
【単位：百万円】

売上高



【単位：百万円】

営業利益



■商品別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	401	—	—	△ 175	69.5%
売上総利益	136	—	—	△ 26	84.0%
営業利益	△ 44	—	—	+ 8	—

※2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。

S E事業部門については、実務上、前年同期の数値を組み替えることが困難なため前期比較を記載しておりません。

■ エネルギー領域

太陽光発電システムの施工販売や電力取引事業を通じて、資源・エネルギーの効率的利用に貢献。

PV部門

法人向け太陽光発電システムの製造から販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを展開

- 法人向け太陽光発電システム
（自家消費型、PPA、FIT太陽光など）
- 蓄電池
- O&M（メンテナンス）など

新電力部門

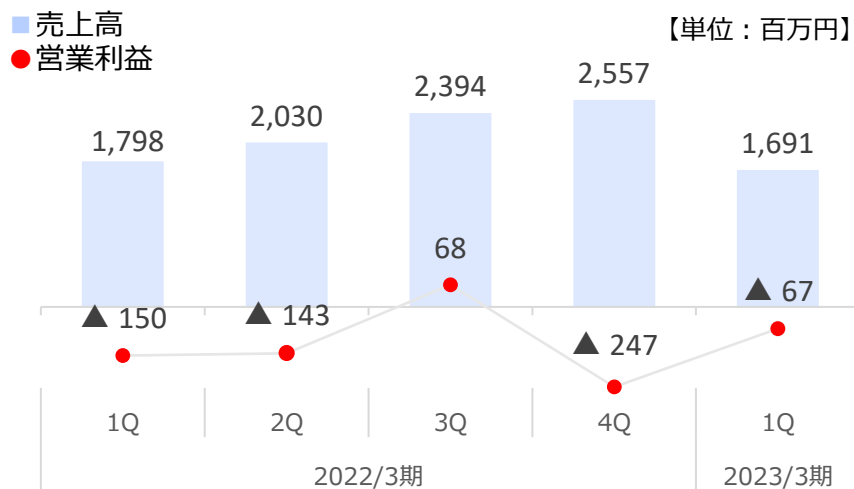
事業所向けから家庭向けまで、9電力会社管内において、電力小売事業を展開

※新規供給契約の受付を停止しております

（単位：百万円）

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	2,981	+ 18	100.6%	△ 157	95.0%
P V 部門	1,691	△ 106	94.1%	△ 3	99.8%
新電力部門	1,289	+ 125	110.8%	△ 154	89.3%
売上総利益	379	△ 302	55.6%	+ 88	130.5%
営業利益	△ 96	△ 52	—	+ 124	—

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【PV事業部門】



主な増減要因（前年同期比較）

■ 売上高 ▲106百万円

- 【+】・法人との業務提携による非FIT発電所施工の増加
- ・既設太陽光発電所のメンテナンス売上の増加

【-】・土地付太陽光等の全量売電案件施工の減少

■ 営業利益 +82百万円

- 【+】・人員配置転換等による人件費の減少
- 【-】・為替影響等により材料コストの増加

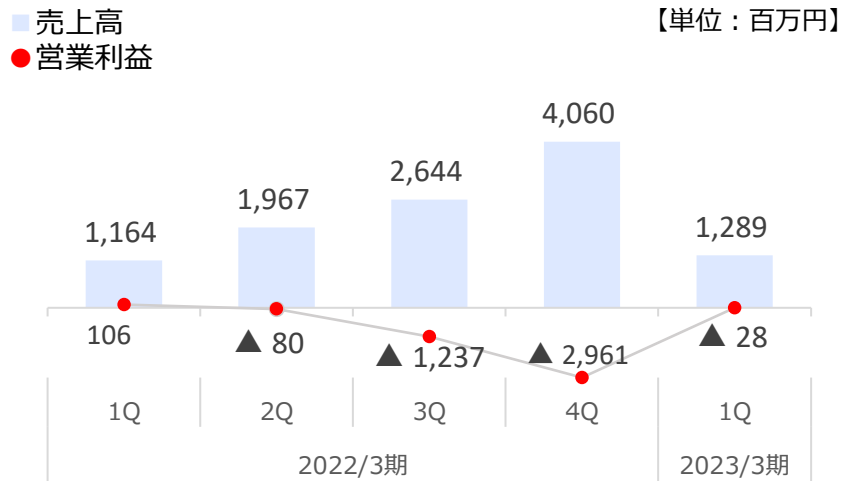
■ 商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	1,691	△ 106	94.1%	△ 3	99.8%
施工売上	1,628	△ 131	92.5%	△ 2	99.9%
卸売上	39	+ 22	228.8%	△ 3	92.3%
その他	23	+ 2	109.9%	+ 2	110.6%
売上総利益	353	△ 146	70.8%	+ 46	115.2%
営業利益	△ 67	+ 82	-	+ 73	-

※2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。
P V事業部門については、前年同期の「(旧) S E 事業部門」の数値と比較しております。

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【新電力事業部門】



主な増減要因（前年同期比較）

■売上高 +125百万円

【+】・エネルギー価格高騰にともなう販売単価の上昇

【-】・大口卸供給先の供給終了による販売量の減少

■営業利益 ▲134百万円

【-】・調達単価の上昇による電力調達コストの増加

■商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	1,289	+ 125	110.8%	△ 154	89.3%
売上総利益	26	△ 156	14.5%	+ 42	-
営業利益	△ 28	△ 134	-	+ 50	-

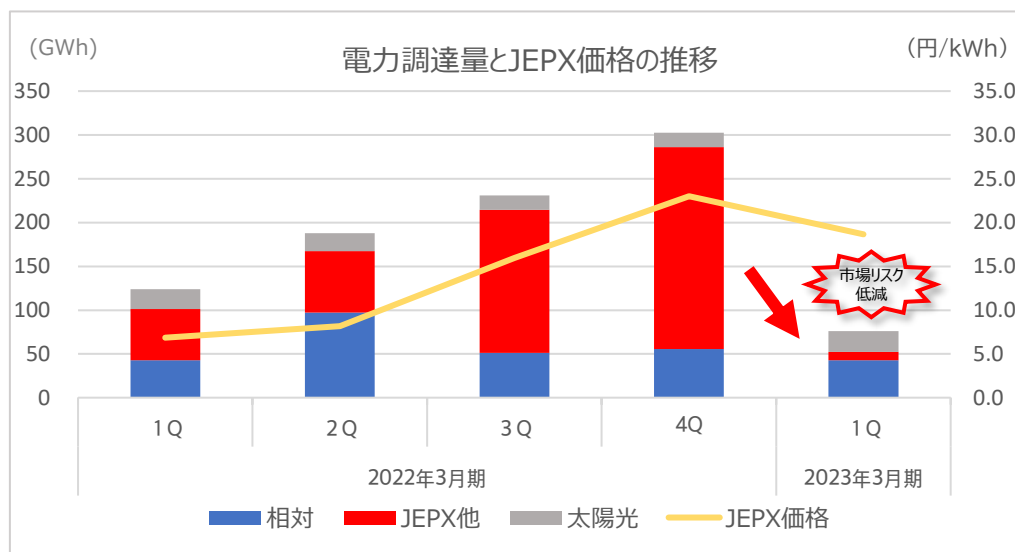
（ご参考）

セグメント間の 内部売上高調整額	0	+ 8	-	-	-
---------------------	---	-----	---	---	---

2022年度方針

- 市場リスクを最小限に抑える事業構造へシフト
- 売上拡大による成長志向ではなく、機能面の強化による他事業との相乗効果の創出を目指す

2023年3月期第1四半期は、2021年10月から引き続き市場価格が高騰しているものの、ポートフォリオの見直しにより市場調達比率及び市場リスクを低減できていることから、市場価格に左右されにくい事業構造へ転換できている。



■ 当社取組み

- ① 相対調達の規模に合わせて供給量を調整し、市場調達を最小限に抑える
- ② 新規需給契約受付の停止
- ③ 小売契約の一部を取次契約へ移行
- ④ 相対卸供給先の契約満了に伴う供給終了

※取次契約

取次事業者が小売電気事業者と取次契約を締結し、小売電気事業者が調達した電気を需要家へ販売する形態のもの。電力供給の責任は、小売電気事業者が有する。

当社の電力調達に関わる重要な市場データとして、JEPX（スポット市場）価格の期中平均価格単価推移（システムプライス（30分単位の1日48コマ）の期中単純平均）を記載しております。

■ 資源循環領域

産業廃棄物の適正処理、再資源化ならびに、廃液処理による水資源の浄化により、資源の効率的利用、清浄な水資源の確保、安心・安全な暮らしに貢献。

環境資源開発部門

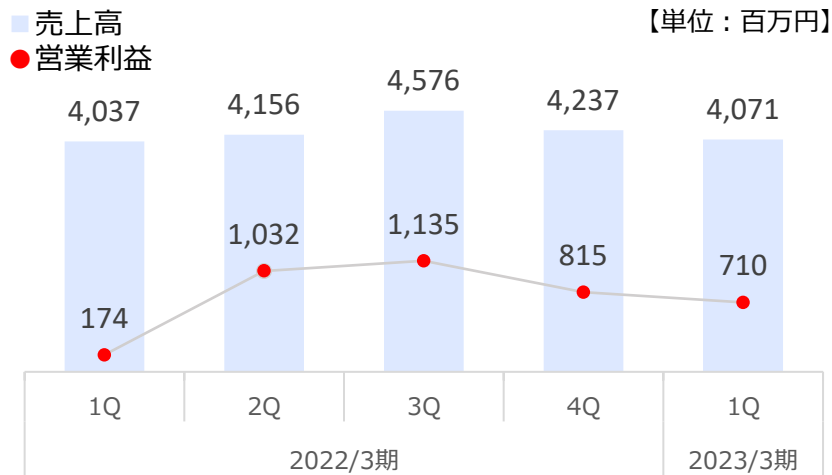
産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクル・発電までを行う資源循環型発電事業、廃液を浄化・リサイクル・燃料化を行う資源循環事業などを展開

- 廃プラスチックの燃料化・リサイクル
- 資源循環型発電システム（廃プラスチック再生燃料による発電）
- 廃液の浄化・リサイクル・燃料化
- 埋立処理 など

(単位：百万円)

	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	4,071	+ 33	100.8%	△ 11	99.7%
売上総利益	1,161	+ 546	188.9%	+ 113	110.9%
営業利益	710	+ 536	408.0%	+ 134	123.4%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】



主な増減要因（前年同期比較）	
■ 売上高	+33百万円
【+】・前期に発電所を停止し法定点検を実施したことによる稼働日数及び発電量の増加	
【-】・プラスチック燃料における高単価廃棄物受入量の減少	
■ 営業利益	+536百万円
【+】・発電所の点検にかかる修繕費の減少	
【-】・プラスチック燃料における高単価廃棄物受入量の減少 ・設備投資等にかかる償却費負担の増加	

■ 商品別売上高・営業利益

（単位：百万円）

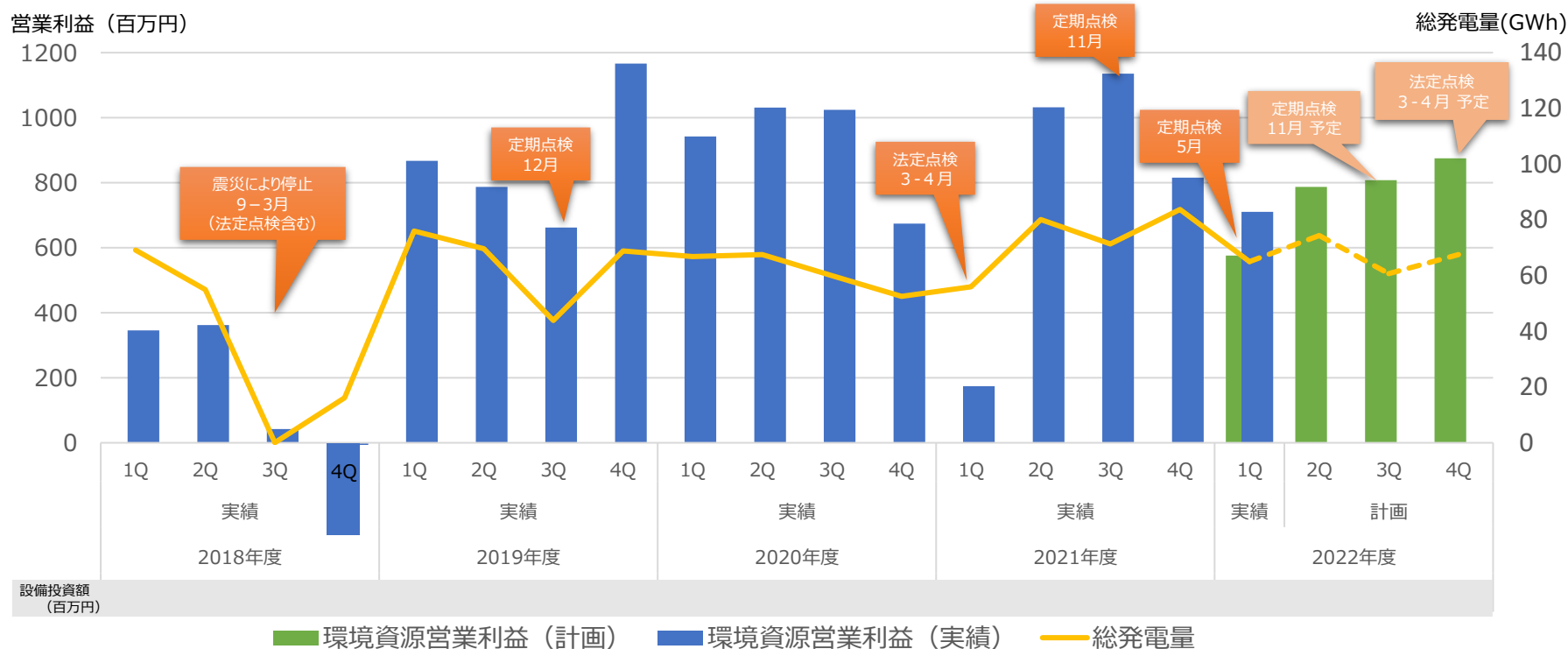
	2023/3期	前年同期		計画	
	1Q実績	差異	前年同期比	差異	計画比
売上高	4,071	+ 33	100.8%	△ 11	99.7%
プラスチック燃料	2,438	△ 179	93.2%	△ 83	96.7%
発電所売上	753	+ 143	123.5%	+ 1	100.1%
廃液処理	511	+ 27	105.6%	△ 0	99.9%
埋立処理	251	+ 45	121.9%	+ 46	122.9%
その他	117	△ 2	97.9%	+ 24	126.2%
売上総利益	1,161	+ 546	188.9%	+ 113	110.9%
営業利益	710	+ 536	408.0%	+ 134	123.4%

■ 営業利益について

- 2023年3月期第1四半期は、比較的単価の高い廃棄物の受入減少や設備投資等による償却費負担が増加しているものの、発電所にかかる修繕費等の減少により、営業利益は前年同期比308.0%増加している。

■ 苫小牧発電所の点検予定時期

- 2022年度 法定点検：2023年3月中旬から4月 予定
※法定点検 2年に1度実施（タービン：4年ごと、ボイラー：2年ごと）

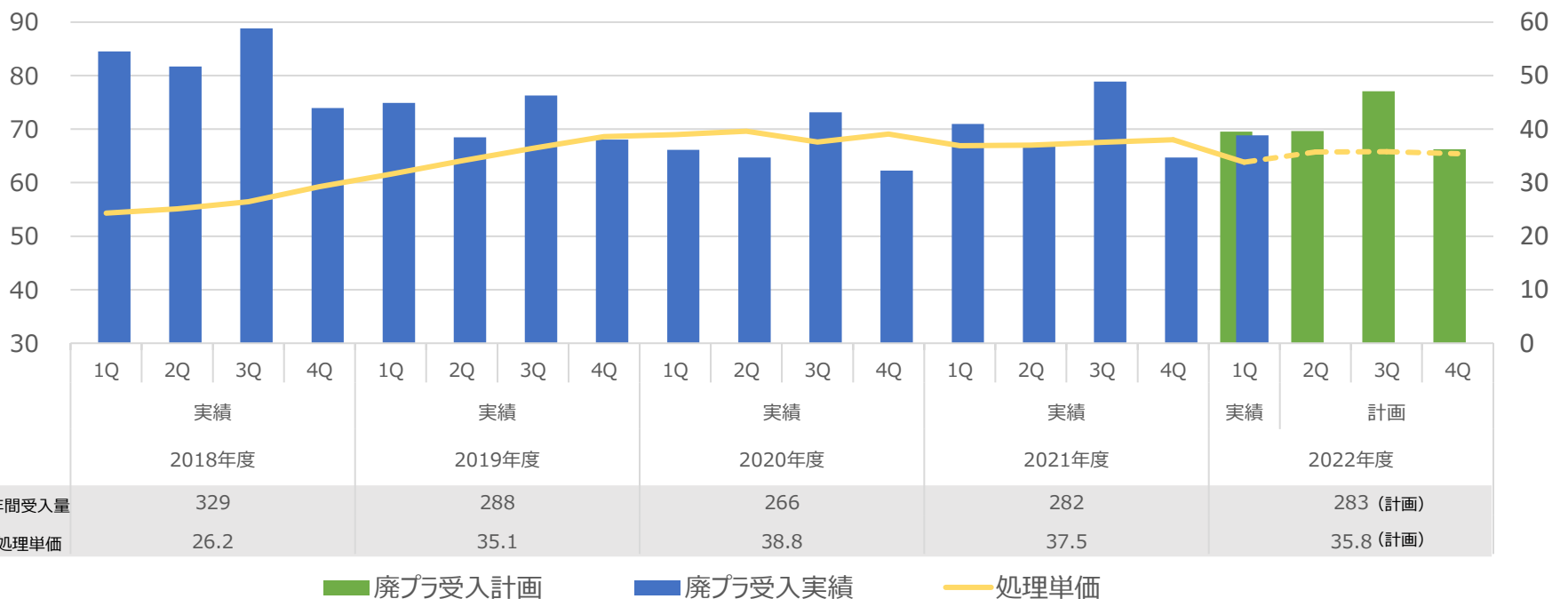


■ 廃プラスチックの受入について

- 2023年3月期第1四半期における処理単価は、当社の一部工場において比較的単価の高い廃棄物の受入が減少したことからわずかに低下している。
- 一方、受入量については、上記廃棄物の受入量が減少したものの、営業活動の強化等によりカバーしている。
- 引き続き、営業活動の強化及び廃棄物管理システム（サニックスシステム）の導入による顧客への廃棄物管理支援を実施し、取引先との関係強化及び受入量拡大を図っていく。

受入量(1,000t)

処理単価 (千円/t)



※処理単価 = プラスチック燃料売上高 ÷ 廃プラ受入量

(単位：百万円)

	2022/3期	2023/3期	前期	
	期末	6月末	差異	前期末比
流動資産	14,551	14,363	△ 188	98.7%
固定資産	20,401	20,066	△ 335	98.4%
資産合計	34,953	34,429	△ 524	98.5%
流動負債	21,718	21,063	△ 654	97.0%
固定負債	8,503	8,421	△ 81	99.0%
負債合計	30,221	29,485	△ 736	97.6%
純資産合計	4,732	4,944	+ 212	104.5%
負債純資産合計	34,953	34,429	△ 524	98.5%

<資産>

主な要因は、現金及び預金が1,249百万円増加し、受取手形及び売掛金が1,891百万円減少

<負債>

主な要因は、支払手形及び買掛金が581百万円、短期借入金が341百万円減少

自己資本比率については、前期末13.5%に対し、2023年3月期第1四半期においては14.3%と改善

■ 設備投資・減価償却費

(単位：百万円)

	2022/3期	2023/3期
	1Q	1Q
設 備 投 資	707	448
減 価 償 却 費	302	427

■ セグメント別 設備投資実績

(単位：百万円)

		2022/3期	2023/3期
		1Q	1Q
H	S 部 門	11	15
E	S 部 門	2	0
S	E 部 門	—	—
P	V 部 門	0	—
新 電 力 部 門		2	—
環 境 資 源 開 発 部 門		616	405
本 社		72	27

主な設備投資

- ・廃液処理設備に係る投資 : 206百万円
- ・廃プラ加工設備に係る投資 : 192百万円

■事業部門別人員（連結）

人員数（連結）	2022/3期 期末	2023/3期 6月末	前期末 増減	2023/3期 計画
H S 部門	794	855	+ 61	922
E S 部門	146	167	+ 21	166
S E 部門	—	115	+ 115	139
P V 部門	334	251	△ 83	245
新電力部門	28	22	△ 6	27
環境資源開発部門	432	445	+ 13	483
その他	42	—	△ 42	—
本社	278	271	△ 7	278
合計	2,054	2,126	+ 72	2,260

■拠点数（子会社含む）

拠点数	2022/3期 期末	2023/3期 6月末	前期末 増減
H S 部門	53	60	+ 7
E S 部門	12	12	—
S E 部門	—	15	+ 15
P V 部門	37	35	△ 2
新電力部門	1	1	—
環境資源開発部門	18	18	—
その他	4	—	△ 4

※上記拠点数には、同一拠点を含みます

※環境資源開発部門は、発電所 1 拠点、最終処分場 1 拠点含む

■ 2023年 3 月期 計画(HS/ES)
・10～12店舗 出店予定

※2023年 3 月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。

2022年 3 月期については、前期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値を記載しております。

2023年3月期 通期業績見通し

業績見通しは、2022年5月16日に発表した計画から変更ありません。
なお、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。

- 売上高 51,319百万円 (対前期 +382百万円)
- 営業利益 2,113百万円 (対前期 +4,731百万円)

2023年3月期 通期連結業績見通しのポイント

		対前期
売上高	【+】	<ul style="list-style-type: none"> • HS・ES部門において、継続的な人員増加及び新規出店による営業強化 • SE・PV部門において、再生可能エネルギーの需要の高まりによる非FIT発電所施工の増加及び既設太陽光発電所のメンテナンス売上の増加
	【-】	<ul style="list-style-type: none"> • 環境資源開発部門において、高単価廃棄物の受入減少 • 新電力部門において、電力供給総量の減少
営業利益	【+】	<ul style="list-style-type: none"> • HS・ES部門において、売上増加による利益の増加 • 環境資源開発部門において、発電所の点検にかかる修繕費の減少 • SE・PV部門において、売上増加による利益の増加 • 新電力部門において、事業構造の再編による赤字縮小
	【-】	<ul style="list-style-type: none"> • HS・ES部門において、人件費の増加 • 環境資源開発部門において、設備投資等にかかる償却費負担の増加 • SE・PV部門において、材料コストの上昇

(単位：百万円)

	2023/3期					
	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
売上高	24,279	+ 1,134	27,039	△ 752	51,319	+ 382
売上総利益 (売上高売上総利益率)	8,404 34.6%	+ 264	8,880 32.8%	+ 4,926	17,284 33.7%	+ 5,190
営業利益 (売上高営業利益率)	779 3.2%	+ 190	1,333 4.9%	+ 4,540	2,113 4.1%	+ 4,731
経常利益 (売上高経常利益率)	666 2.7%	+ 175	1,174 4.3%	+ 4,566	1,841 3.6%	+ 4,742
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高当期純利益率)	562 2.3%	+ 430	879 3.3%	+ 4,461	1,441 2.8%	+ 4,891

2023年3月期 セグメント別 通期連結業績見通し

(単位：百万円)

	2023/3期					
	上半期		下半期		通期	
	計画	前年同期差異	計画	前年同期差異	計画	前期差異
売上高	24,279	+ 1,134	27,039	△ 752	51,319	+ 382
H S 部門	6,764	+ 276	6,290	+ 357	13,055	+ 633
E S 部門	1,350	+ 85	1,400	+ 177	2,750	+ 262
S E 部門	1,301	+ 1,301	1,482	+ 1,482	2,784	+ 2,784
P V 部門	3,843	+ 14	7,114	+ 2,162	10,958	+ 2,177
新電力部門	2,821	△ 310	2,446	△ 4,258	5,267	△ 4,568
環境資源開発部門	8,199	+ 4	8,305	△ 508	16,504	△ 503
その他/セグメント間の 内部売上高調整額	0	△ 237	0	△ 165	0	△ 403
営業利益	779	+ 190	1,333	+ 4,540	2,113	+ 4,731
H S 部門	1,263	△ 131	760	△ 227	2,024	△ 358
E S 部門	109	△ 11	121	+ 15	231	+ 4
S E 部門	△ 39	△ 39	42	+ 42	3	+ 3
P V 部門	△ 153	+ 140	274	+ 454	121	+ 594
新電力部門	△ 99	△ 125	△ 80	+ 4,118	△ 180	+ 3,993
環境資源開発部門	1,363	+ 156	1,683	△ 268	3,046	△ 111
その他	0	+ 150	0	+ 112	0	+ 262
配賦不能	△ 1,663	+ 50	△ 1,469	+ 293	△ 3,133	+ 343

2023年3月期 セグメント別見通し【HS事業部門】

(単位：百万円)

	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	6,764		+ 276	6,290		+ 357	13,055		+ 633
白蟻防除施工	2,044	30.2%	+ 51	1,715	27.3%	+ 66	3,760	28.8%	+ 118
床下換気・天井裏換気システム	1,715	25.4%	+ 47	1,574	25.0%	+ 102	3,290	25.2%	+ 149
基礎補修・家屋補強工事	1,075	15.9%	+ 30	1,055	16.8%	+ 46	2,130	16.3%	+ 76
その他	1,928	28.5%	+ 147	1,945	30.9%	+ 142	3,874	29.7%	+ 289
売上原価	2,579	38.1%	+ 230	2,654	42.2%	+ 249	5,234	40.1%	+ 480
うち、労務費	915	13.5%	+ 86	1,030	16.4%	+ 198	1,946	14.9%	+ 284
売上総利益	4,184	61.9%	+ 45	3,636	57.8%	+ 107	7,820	59.9%	+ 153
販売費・一般管理費	2,921	43.2%	+ 177	2,875	45.7%	+ 335	5,796	44.4%	+ 512
うち、人件費	1,857	27.5%	+ 174	1,881	29.9%	+ 271	3,738	28.6%	+ 445
営業利益	1,263	18.7%	△ 131	760	12.1%	△ 227	2,024	15.5%	△ 358

HS部門は、地域に密着した新規開拓、既存顧客のアフター体制をより一層拡充することで、事業基盤を強化し、その上で採用等による人員増や店舗出店を行い、新規及び顧客件数の増加を図ってまいります。

2023年3月期 セグメント別見通し【ES事業部門】

(単位：百万円)

	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	1,350		+ 85	1,400		+ 177	2,750		+ 262
防錆機器取付施工	694	51.5%	+ 46	718	51.3%	+ 145	1,413	51.4%	+ 192
その他	655	48.5%	+ 38	681	48.7%	+ 31	1,336	48.6%	+ 70
売上原価	626	46.4%	+ 43	655	46.8%	+ 79	1,281	46.6%	+ 122
うち、労務費	155	11.5%	+ 16	157	11.2%	+ 24	312	11.4%	+ 41
売上総利益	723	53.6%	+ 41	744	53.2%	+ 98	1,468	53.4%	+ 139
販売費・一般管理費	613	45.5%	+ 52	622	44.5%	+ 82	1,236	45.0%	+ 135
うち、人件費	355	26.3%	+ 26	358	25.6%	+ 47	713	25.9%	+ 74
営業利益	109	8.1%	△ 11	121	8.7%	+ 15	231	8.4%	+ 4

ES部門は、管理会社などの提携先開拓、既提携先の密なフォローによる紹介や、不動産オーナーとの商談の機会を増やし、主力商品である「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」の販路を拡大してまいります。

2023年3月期 セグメント別見通し【SE事業部門】

(単位：百万円)

	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	1,301		—	1,482		—	2,784		—
売上原価	899	69.1%	—	990	66.8%	—	1,889	67.9%	—
うち、材料費等	503	38.7%	—	575	38.8%	—	1,078	38.7%	—
うち、労務費	187	14.4%	—	188	12.7%	—	375	13.5%	—
売上総利益	401	30.9%	—	492	33.2%	—	894	32.1%	—
販売費・一般管理費	441	33.9%	—	449	30.3%	—	891	32.0%	—
うち、人件費	226	17.4%	—	235	15.9%	—	462	16.6%	—
営業利益	△ 39	—	—	42	2.9%	—	3	0.1%	—

SE部門は、太陽光発電システムの戸建住宅への普及促進を図るため、一般家庭市場を中心として営業を進めております。また、蓄電池システムや機器交換等のメンテナンスにも力を入れております。

2023年3月期 セグメント別見通し【PV事業部門】

(単位：百万円)

	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	3,843		+ 14	7,114		+ 2,162	10,958		+ 2,177
施工売上	3,721	96.8%	△ 31	7,005	98.5%	+ 2,310	10,726	97.9%	+ 2,279
卸売	81	2.1%	+ 46	78	1.1%	△ 148	159	1.5%	△ 101
その他	40	1.0%	△ 0	31	0.4%	△ 0	71	0.7%	△ 0
売上原価	3,078	80.1%	+ 261	5,779	81.2%	+ 1,757	8,858	80.8%	+ 2,019
うち、材料費等	1,991	51.8%	+ 410	4,039	56.8%	+ 1,463	6,031	55.0%	+ 1,874
うち、労務費	321	8.4%	△ 66	316	4.5%	△ 166	637	5.8%	△ 232
売上総利益	765	19.9%	△ 246	1,334	18.8%	+ 404	2,099	19.2%	+ 158
販売費・一般管理費	918	23.9%	△ 386	1,060	14.9%	△ 49	1,978	18.1%	△ 436
うち、人件費	444	11.6%	△ 208	508	7.2%	+ 2	953	8.7%	△ 205
営業利益	△ 153	—	+ 140	274	3.9%	+ 454	121	1.1%	+ 594

PV部門は、2020年度よりFIT制度が「自家消費」を前提とした設計となったため、商品コンセプト、提案内容を変更し事業活動を移行してまいりました。昨今のエネルギー価格の高騰を受け太陽光発電による電力が注目されており、引き続き法人向けに「自家消費」太陽光発電の新規開拓を進めるとともに、資産管理会社との協働などで電力供給者、需要者のニーズに応えてまいります。

2023年3月期 セグメント別見通し【新電力事業部門】

(単位：百万円)

	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	2,821		△ 310	2,446		△ 4,258	5,267		△ 4,568
売上原価	2,795	99.1%	△ 149	2,402	98.2%	△ 8,360	5,198	98.7%	△ 8,510
うち、材料費	2,795	99.1%	△ 149	2,402	98.2%	△ 8,360	5,198	98.7%	△ 8,510
売上総利益	25	0.9%	△ 160	43	1.8%	+ 4,102	69	1.3%	+ 3,941
販売費・一般管理費	125	4.5%	△ 35	123	5.1%	△ 16	249	4.7%	△ 51
うち、人件費	68	2.4%	△ 13	68	2.8%	△ 2	136	2.6%	△ 15
営業利益	△ 99	—	△ 125	△ 80	—	+ 4,118	△ 180	—	+ 3,993

新電力部門は、卸電力取引市場（JEPX）の価格高騰に加え、ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギー価格の高止まりが当面続く見通しであることから、採算性の確保が困難であると判断し、電力小売事業を縮小することといたしました。なお、太陽光発電システム販売における自家消費、PPA等の再生可能エネルギー導入モデルの事業化や、VPP等のエネルギーマネジメントを見据え、電力の需給管理業務は継続してまいります。

2023年3月期 セグメント別見通し【環境資源開発事業部門】

(単位：百万円)

	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	8,199		+ 4	8,305		△ 508	16,504		△ 503
プラスチック燃料	5,010	61.1%	△ 96	5,103	61.4%	△ 364	10,113	61.3%	△ 461
発電所売上	1,573	19.2%	+ 163	1,592	19.2%	+ 15	3,166	19.2%	+ 179
廃液処理	1,040	12.7%	+ 29	1,048	12.6%	△ 14	2,088	12.7%	+ 15
埋立処理	385	4.7%	△ 40	353	4.3%	△ 131	739	4.5%	△ 172
その他	189	2.3%	△ 51	207	2.5%	△ 13	397	2.4%	△ 64
売上原価	5,895	71.9%	△ 206	5,676	68.4%	△ 271	11,572	70.1%	△ 477
うち、労務費	969	11.8%	+ 27	1,004	12.1%	+ 32	1,973	12.0%	+ 59
売上総利益	2,303	28.1%	+ 211	2,628	31.6%	△ 237	4,932	29.9%	△ 25
販売費・一般管理費	940	11.5%	+ 55	945	11.4%	+ 30	1,885	11.4%	+ 86
うち、人件費	585	7.1%	+ 29	593	7.1%	+ 25	1,178	7.1%	+ 54
営業利益	1,363	16.6%	+ 156	1,683	20.3%	△ 268	3,046	18.5%	△ 111

環境資源開発部門は、プラスチック燃料の品質向上、工場の効率運営を進めてまいりました。引き続き収益性を重視しつつ受入の増加を図ることで業績向上を図ってまいります。新たに排出元における廃棄物管理システム（商品名：サニックスシステム）の販売を開始し、廃棄物の処理事業にとどまらず、契約書・管理票（マニフェスト伝票）・自治体への実績報告等の煩雑な業務をサポートすることで、継続的な取引につなげてまいります。

		2019/3期 実績	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	5.85%	36.31%	27.87%	—	26.70%
総資産経常利益率	ROA	3.88%	8.16%	6.39%	—	5.30%
自己資本比率		13.42%	18.55%	24.50%	13.47%	17.70%
投下資本利益率	ROIC	2.31%	10.77%	11.19%	—	9.20%

(単位：百万円)

	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 計画
設備投資	2,742	3,083	2,776	1,800~2,000
減価償却費	914	1,097	1,509	1,800

トピックス

■ HS部門：東日本へ営業エリア拡大（2022年6月1日）

当社は、HS部門において、東日本への営業エリア拡大を目的に関東エリアに4店舗、また、九州エリアに2店舗を開設しております。



サニックス長期ビジョン2030では、2030年までにHS部門における店舗数を倍増し、人員も大幅に増員していく計画です。これまで西日本に集中していた営業エリアを東日本を含む全国へと拡大し、更なるサービスの拡充を図ってまいります。

リリース：2022年6月1日

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000068.000025581.html>

サニックス長期ビジョン2030

https://sanix.jp/report/614/report_614_682.pdf

■ 分散型エネルギーリソースを活用した実証事業を開始

当社を含む17社は、コンソーシアムを形成し、経済産業省が一般社団法人環境共創イニシアチブを通じて公募する実証事業「令和4年度 蓄電池等の分散型エネルギーリソースを活用した次世代技術構築実証事業費補助金（再エネ発電等のアグリゲーション技術実証事業のうち分散型エネルギーリソースの更なる活用に向けた実証事業）」に2022年5月27日に採択され、リソースアグリゲーション事業の実現を目的とした分散型エネルギーリソース活用実証を開始しております。

【2022年度の主な実証内容】

- ・ACシステムの更なる高度化や制御制度の一層の向上
- ・RA事業者が市場参入しやすくなる機能の充実
- ・市場制度の課題やビジネスモデルの検討

AC・・・アグリゲーションコーディネーター

RA・・・リソースアグリゲーター

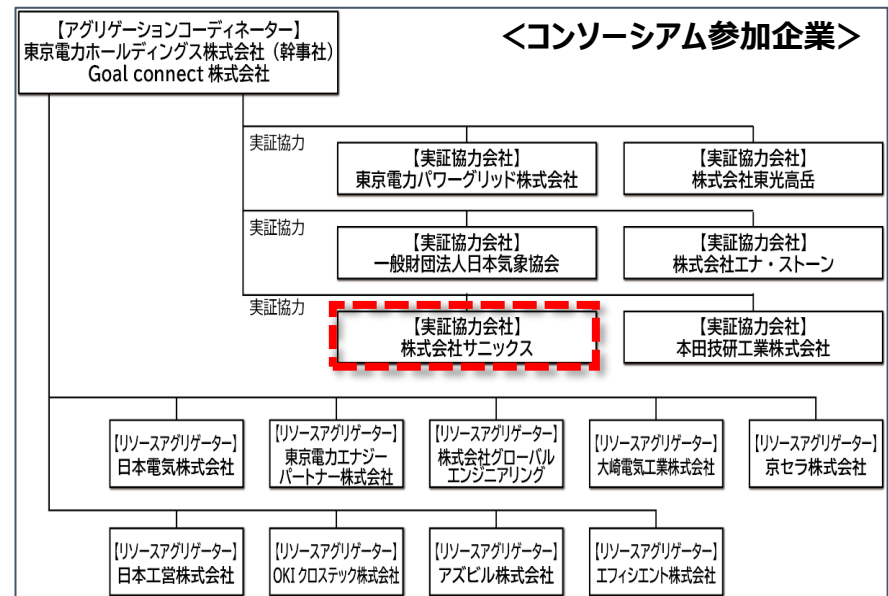
分散型エネルギーリソース・・・分散配置された大小の蓄電池や電気自動車、自家発電、空調等のエネルギーリソース

リリース：2022年6月15日

<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000069.000025581.html>

参照：分散型エネルギーリソース活用実証事業の概要

<https://prt-times.jp/a/?f=d25581-20220613-eb13a418b7cc322b3b569d3f2e122202.pdf>



補足資料 (2022年3月期 セグメント別実績)

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	3,892		4,293		110.3%	4,667	
H S 部門	3,297	84.7%	3,344	77.9%	101.4%	3,461	74.2%
E S 部門	595	15.3%	547	12.7%	91.9%	628	13.5%
S E 部門	—	—	401	9.4%	—	577	12.4%
売上原価	1,470	37.8%	1,755	40.9%	119.4%	2,021	43.3%
うち、労務費	495	12.7%	560	13.0%	113.1%	639	13.7%
売上総利益	2,422	62.2%	2,538	59.1%	104.8%	2,645	56.7%
販売費・一般管理費	1,662	42.7%	1,944	45.3%	117.0%	1,978	42.4%
うち、人件費	1,013	26.0%	1,180	27.5%	116.4%	1,209	25.9%
営業利益	760	19.5%	593	13.8%	78.1%	667	14.3%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【HS事業部門】

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	3,297		3,344		101.4%	3,461	
白蟻防除施工	1,049	31.8%	1,115	33.4%	106.3%	1,080	31.2%
床下・天井裏換気システム	794	24.1%	821	24.6%	103.3%	820	23.7%
基礎補修・家屋補強工事	557	16.9%	486	14.6%	87.3%	575	16.6%
その他	895	27.2%	920	27.5%	102.8%	984	28.4%
売上原価	1,196	36.3%	1,218	36.4%	101.9%	1,312	37.9%
うち、労務費	428	13.0%	425	12.7%	99.4%	468	13.5%
売上総利益	2,101	63.7%	2,126	63.6%	101.2%	2,149	62.1%
販売費・一般管理費	1,384	42.0%	1,474	44.1%	106.5%	1,459	42.2%
うち、人件費	848	25.7%	909	27.2%	107.2%	921	26.6%
営業利益	716	21.7%	651	19.5%	90.9%	689	19.9%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【ES事業部門】

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	595		547		91.9%	628	
防錆機器取付施工	313	52.7%	223	40.8%	71.0%	327	52.2%
その他	281	47.3%	324	59.2%	115.2%	300	47.8%
売上原価	274	46.0%	271	49.7%	99.1%	295	47.0%
うち、労務費	67	11.3%	70	12.9%	105.2%	76	12.2%
売上総利益	321	54.0%	275	50.3%	85.7%	333	53.0%
販売費・一般管理費	278	46.7%	288	52.7%	103.8%	301	48.0%
うち、人件費	165	27.8%	174	31.9%	105.2%	176	28.0%
営業利益	43	7.3%	△ 13	—	—	31	5.0%

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【SE事業部門】

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	—		401		—	577	
売上原価	—	—	264	66.0%	—	414	71.8%
うち、材料費等	—	—	137	34.2%	—	222	38.5%
うち、労務費	—	—	63	15.9%	—	94	16.4%
売上総利益	—	—	136	34.0%	—	162	28.2%
販売費・一般管理費	—	—	181	45.2%	—	216	37.5%
うち、人件費	—	—	96	24.1%	—	111	19.3%
営業利益	—	—	△ 44	—	—	△ 53	—

※2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。

S E 事業部門については、実務上、前年同期の数値を組み替えることが困難なため前期比較を記載しておりません。

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	2,962		2,981		100.6%	3,138	
P V 部門	1,798	60.7%	1,691	56.7%	94.1%	1,694	54.0%
新電力部門	1,164	39.3%	1,289	43.3%	110.8%	1,443	46.0%
売上原価	2,279	77.0%	2,601	87.3%	114.1%	2,847	90.7%
うち、労務費	149	5.1%	194	6.5%	129.7%	162	5.2%
売上総利益	682	23.0%	379	12.7%	55.6%	291	9.3%
販売費・一般管理費	726	24.5%	476	16.0%	65.5%	511	16.3%
うち、人件費	410	13.9%	255	8.6%	62.1%	251	8.0%
営業利益	△ 44	—	△ 96	—	—	△ 220	—

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【PV事業部門】

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	1,798		1,691		94.1%	1,694	
施工売上	1,759	97.8%	1,628	96.3%	92.5%	1,630	96.2%
卸販売	17	1.0%	39	2.3%	228.8%	42	2.5%
その他	21	1.2%	23	1.4%	109.9%	21	1.3%
売上原価	1,298	72.2%	1,337	79.1%	103.0%	1,387	81.9%
うち、材料費等	765	42.6%	753	44.6%	98.5%	860	50.8%
うち、労務費	149	8.3%	194	11.5%	129.7%	162	9.6%
売上総利益	499	27.8%	353	20.9%	70.8%	306	18.1%
販売費・一般管理費	650	36.2%	421	24.9%	64.8%	448	26.5%
うち、人件費	368	20.5%	224	13.3%	60.8%	217	12.8%
営業利益	△ 150	—	△ 67	—	—	△ 141	—

※2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。
P V事業部門については、前年同期の「(旧) S E 事業部門」の数値と比較しております。

2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【新電力事業部門】

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	1,164		1,289		110.8%	1,443	
売上原価	981	84.3%	1,263	97.9%	128.8%	1,459	101.1%
うち、材料費	981	84.3%	1,263	97.9%	128.7%	1,459	101.1%
売上総利益	183	15.7%	26	2.1%	14.5%	△ 15	—
販売費・一般管理費	76	6.6%	54	4.3%	71.4%	62	4.3%
うち、人件費	42	3.6%	30	2.4%	73.4%	34	2.4%
営業利益	106	9.1%	△ 28	—	—	△ 78	—

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	4,037		4,071		100.8%	4,082	
売上原価	3,422	84.8%	2,909	71.5%	85.0%	3,034	74.3%
うち、労務費	475	11.8%	468	11.5%	98.5%	483	11.9%
売上総利益	614	15.2%	1,161	28.5%	188.9%	1,048	25.7%
販売費・一般管理費	440	10.9%	451	11.1%	102.3%	471	11.6%
うち、人件費	277	6.9%	278	6.8%	100.6%	292	7.2%
営業利益	174	4.3%	710	17.5%	408.0%	576	14.1%

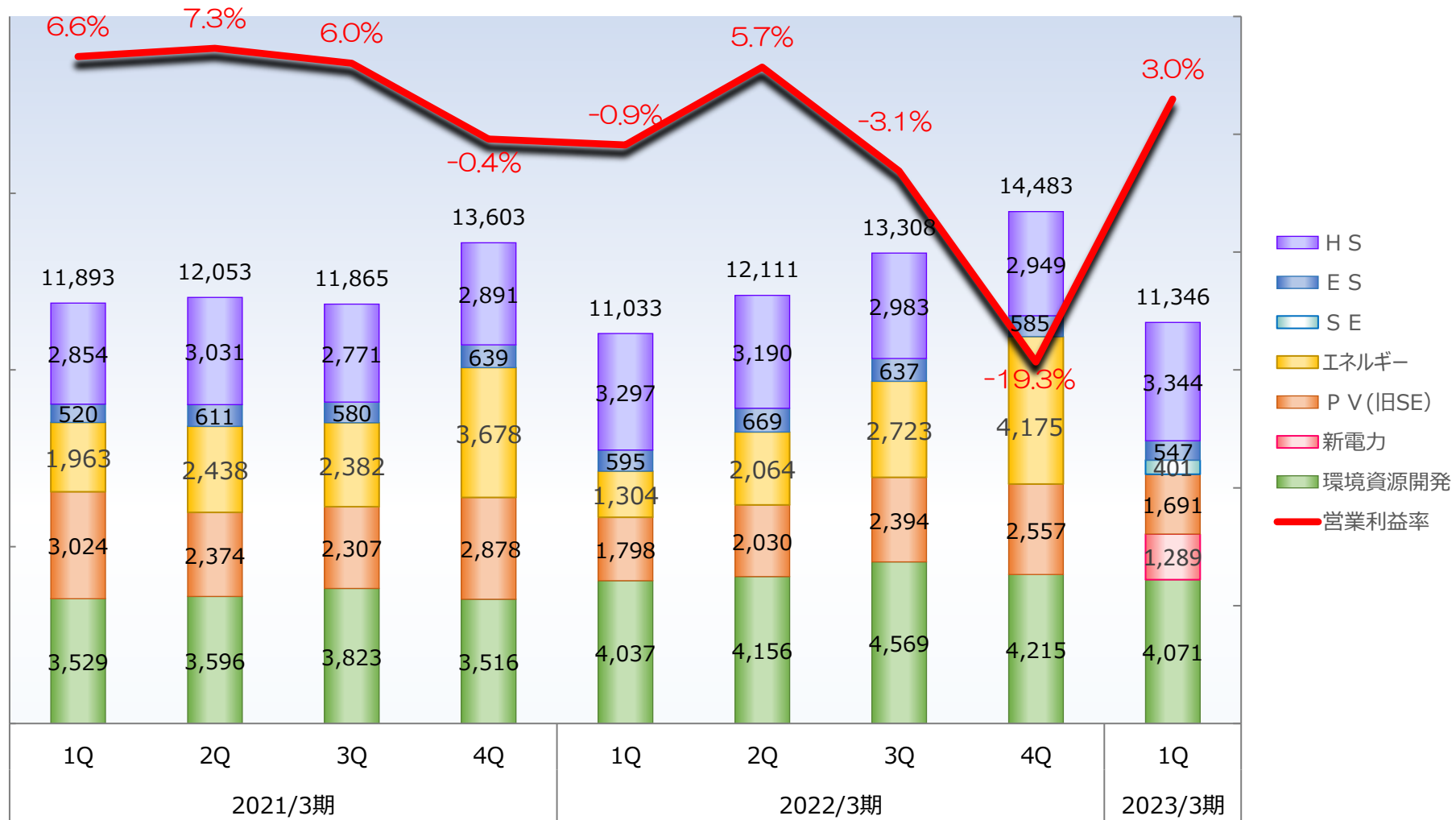
2023年3月期 第1四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売 上 高	4,037		4,071		100.8%	4,082	
プラスチック燃料	2,617	64.8%	2,438	59.9%	93.2%	2,521	61.7%
発電所売上	610	15.1%	753	18.5%	123.5%	752	18.4%
廃液処理	484	12.0%	511	12.6%	105.6%	511	12.5%
埋立処理	205	5.1%	251	6.2%	121.9%	204	5.0%
その他	120	3.0%	117	2.9%	97.9%	93	2.3%
売 上 原 価	3,422	84.8%	2,909	71.5%	85.0%	3,034	74.3%
うち、労務費	475	11.8%	468	11.5%	98.5%	483	11.9%
売 上 総 利 益	614	15.2%	1,161	28.5%	188.9%	1,048	25.7%
販売費・一般管理費	440	10.9%	451	11.1%	102.3%	471	11.6%
うち、人件費	277	6.9%	278	6.8%	100.6%	292	7.2%
営 業 利 益	174	4.3%	710	17.5%	408.0%	576	14.1%

【参考】 セグメント別売上高の推移

(単位：百万円)



- ・「セグメント間の内部売上高調整額」は環境資源開発及びエネルギーの売上高から差し引いております。
- ・2023年3月期は、事業部門の組織改編により、セグメント区分を変更しております。

補足資料（事業構造）

企業理念 「次世代へ快適な環境を」

エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』

再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に

つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅
流通市場形成

住環境領域

- HS
- ES
- SE

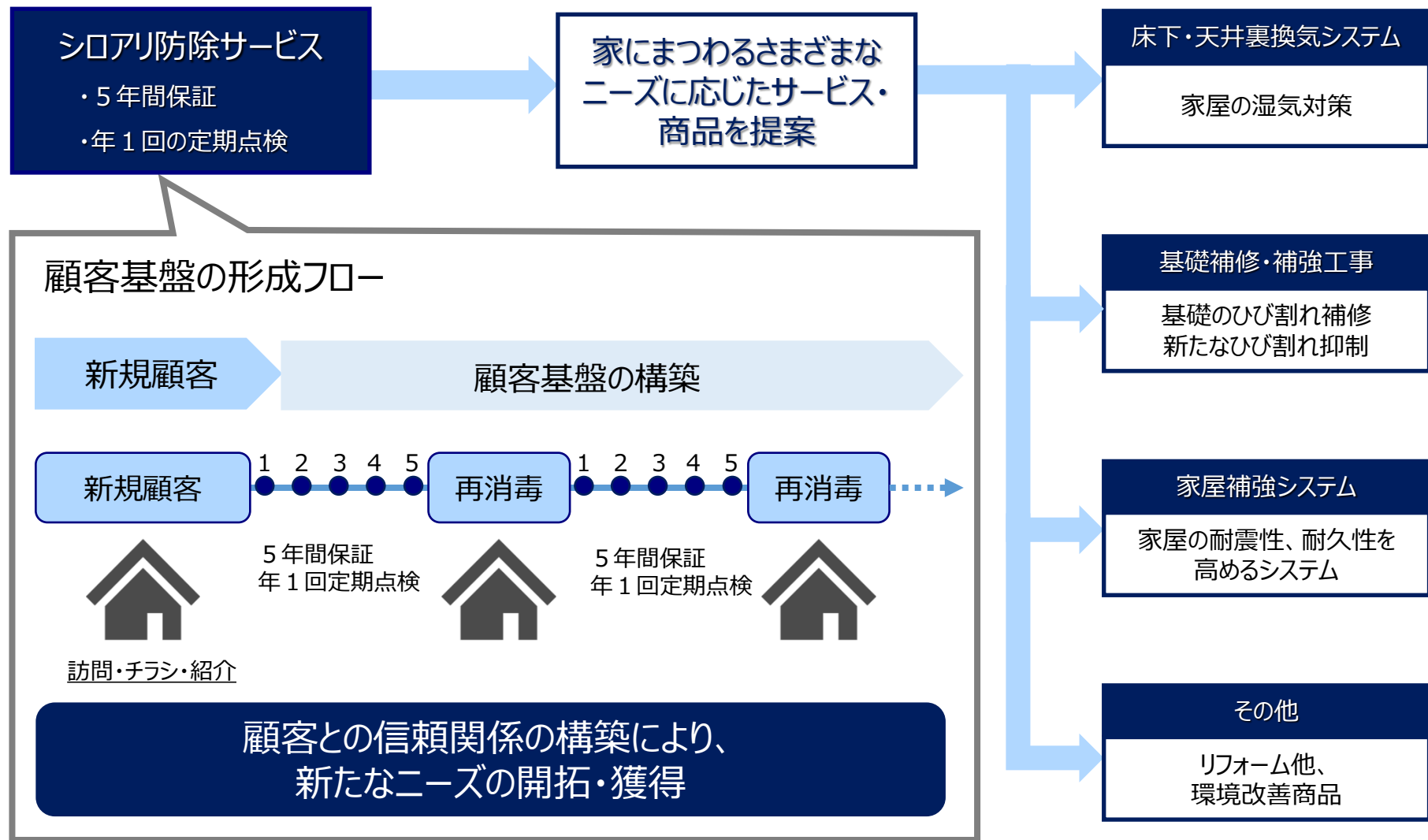
資源循環領域

- 環境資源

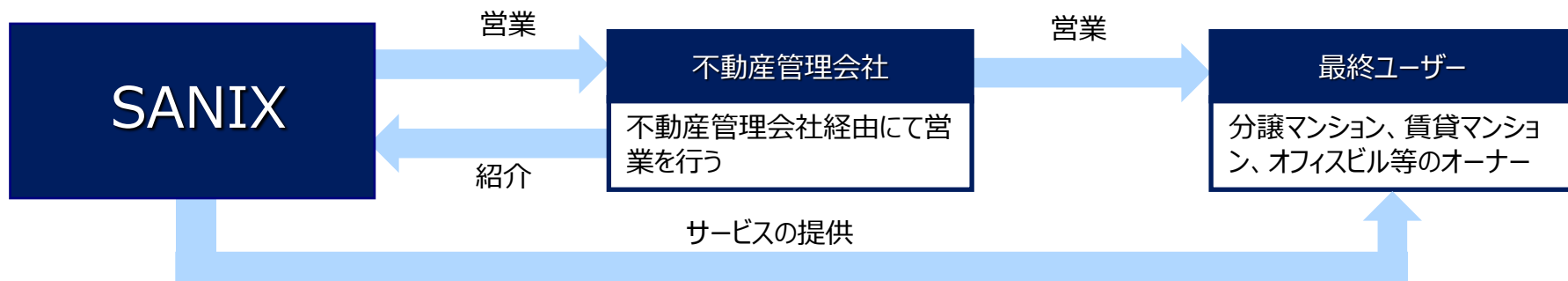
『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、
プラスチック資源循環戦略

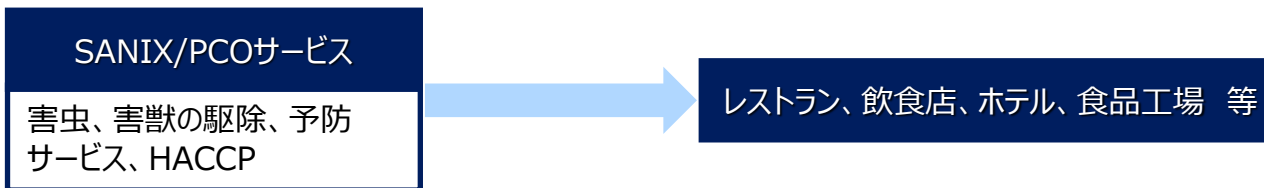
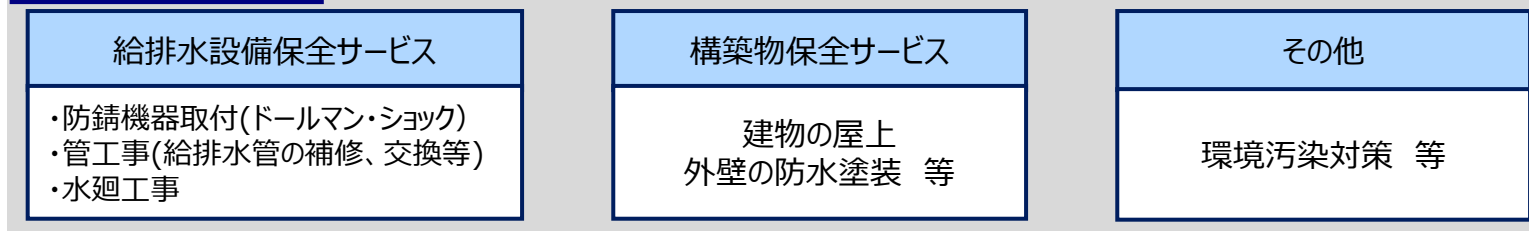
HS部門 事業構造



E S 部門 事業構造

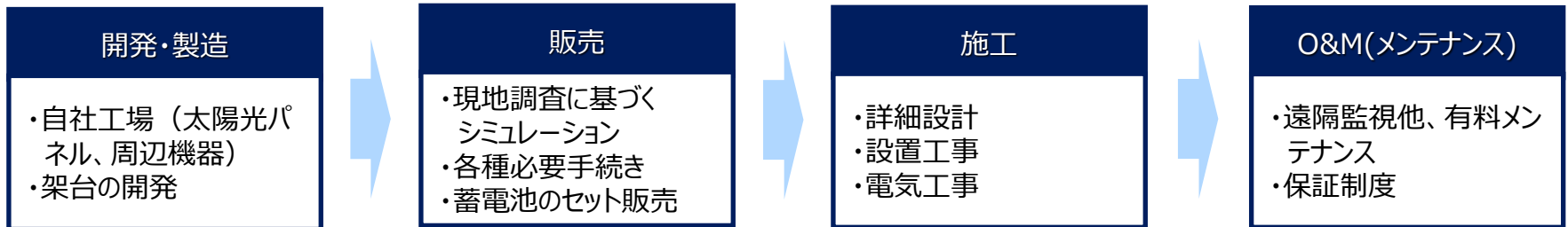


主なサービス・商品



SE/PV部門 事業構造

製造・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



住宅向け（10kW未満） 主にSE事業部門

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

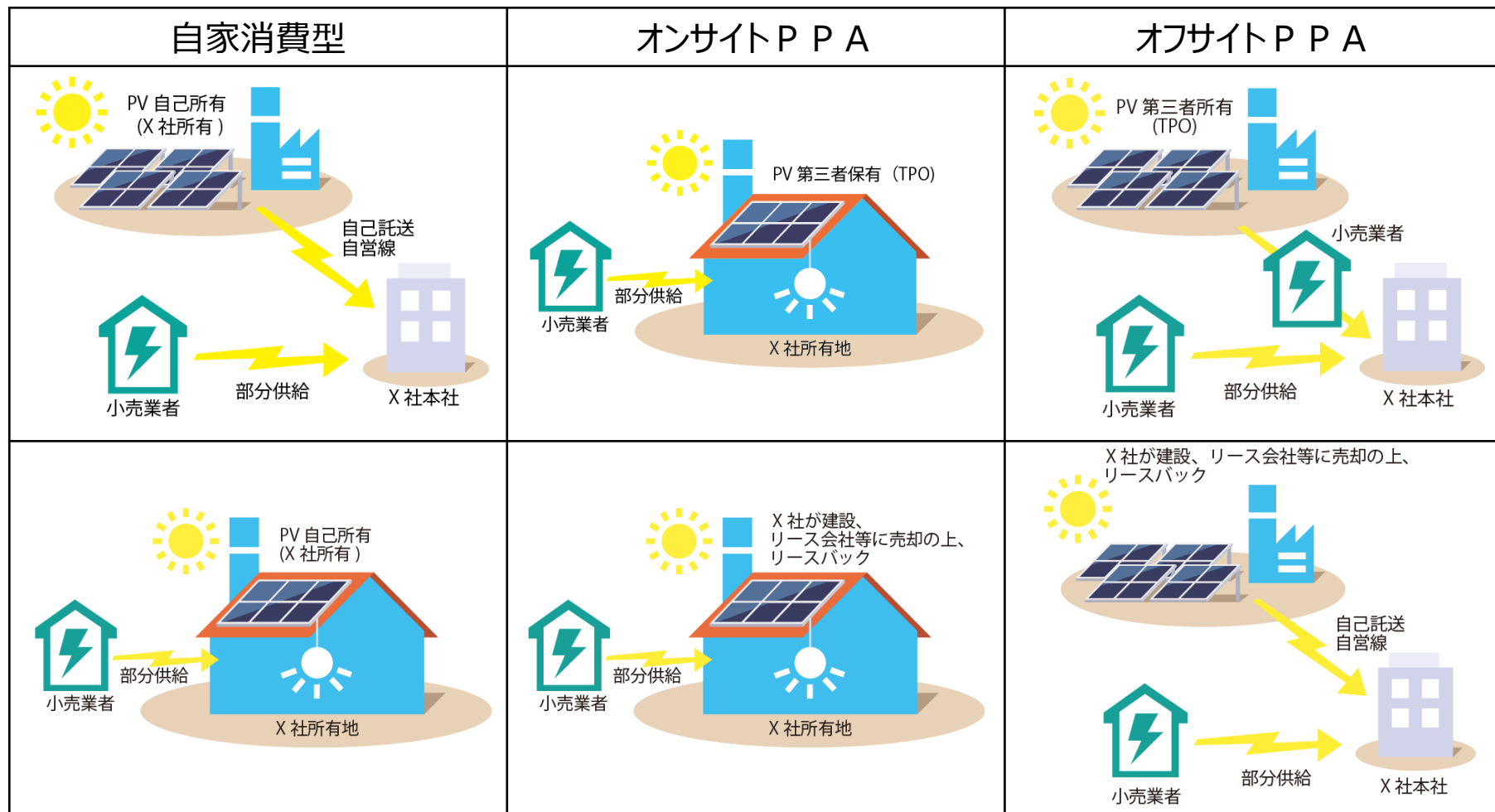
法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業部門

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、今期より営業を本格化
更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

太陽光設備の導入・保有、および電力の供給方法の 多様化・高度化

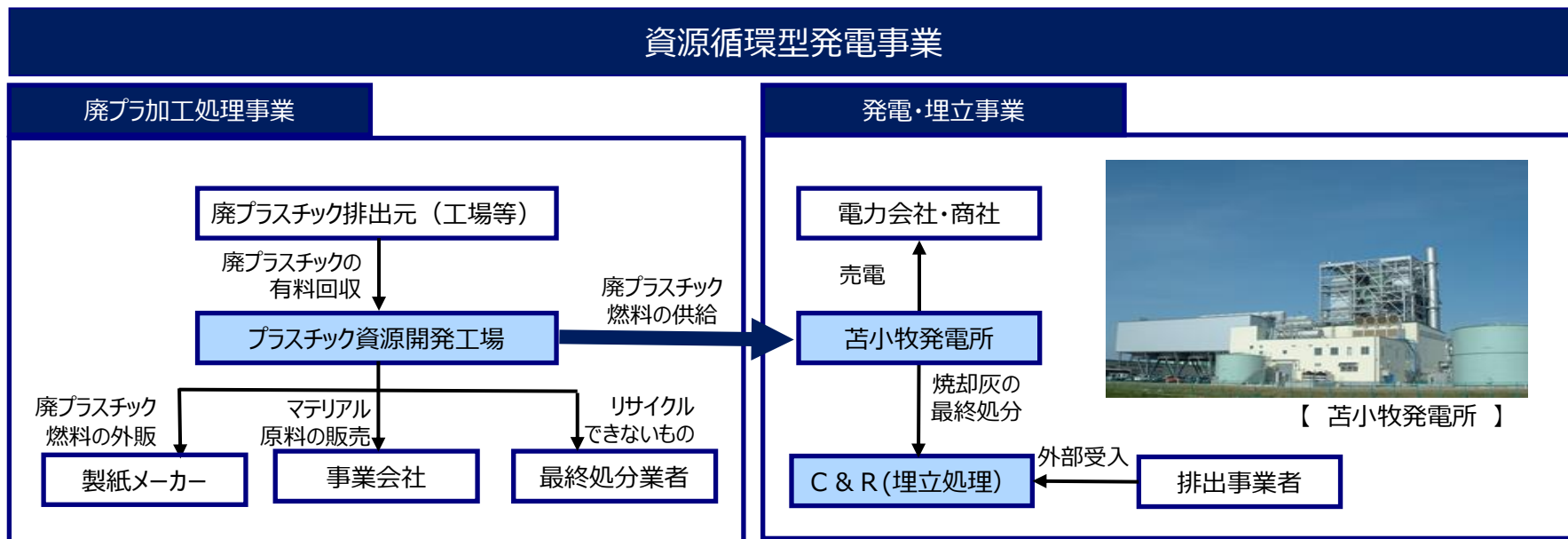
電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、
経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化



太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

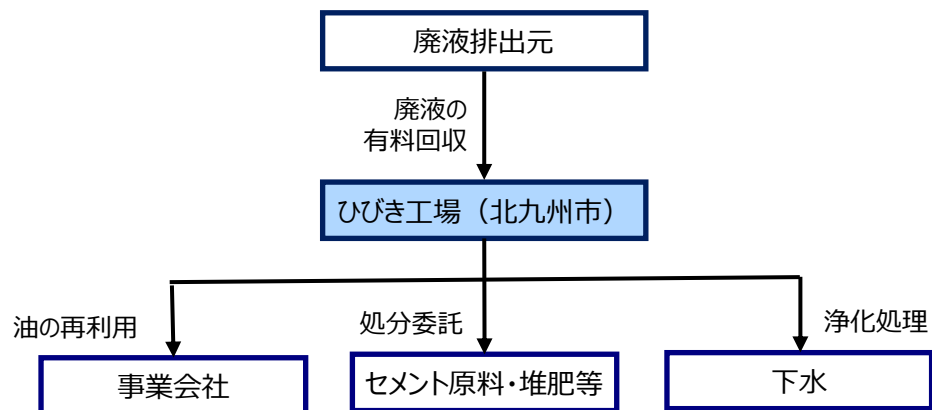
環境資源開発部門 事業構造

資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化